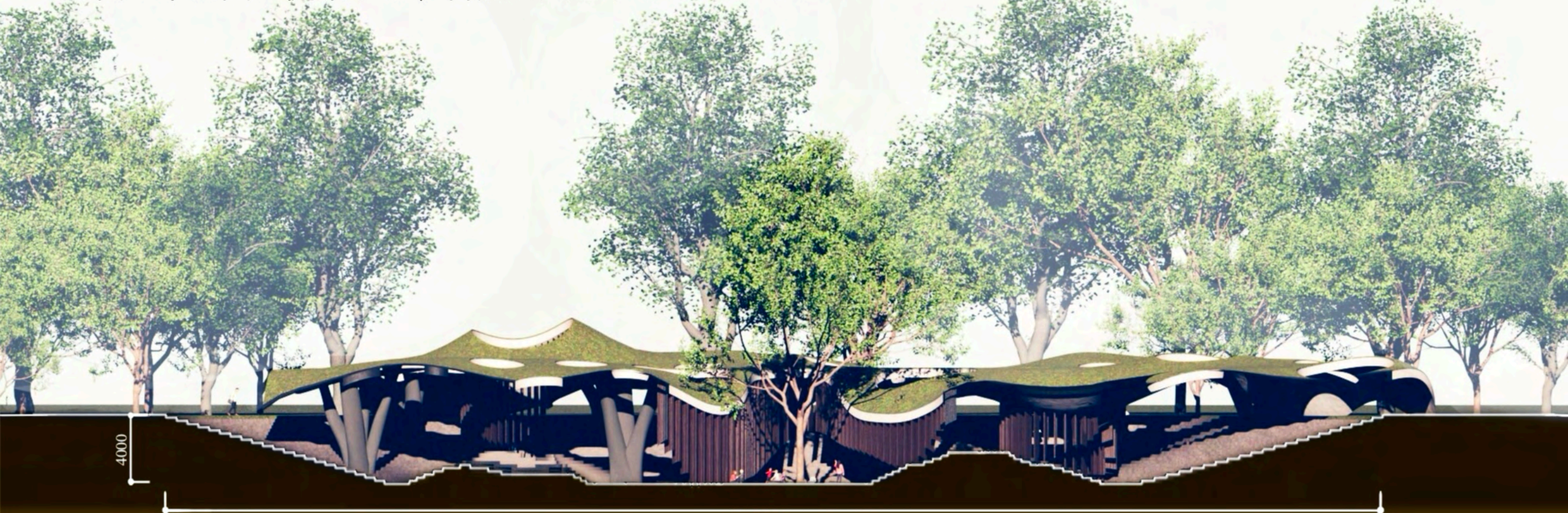


# 「0」から生まれる都市の余白

— 代々木公園に提案する、自然と共生するパブリックスペース —



都市には、人が「佇む場所」が足りない。

建築はランドラインの上に積み重ねられ、利便性を追求する中で都市の空間は均質化されてきた。計画された動線の中で、人は「通り過ぎる」ことを前提に行動し、気づけば、都市には「ちょうどいい余白」が失われている。

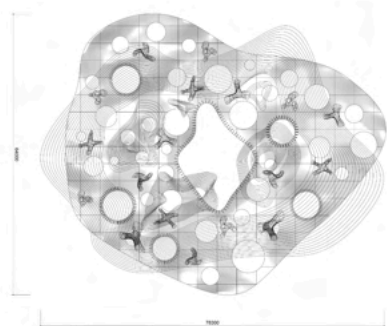
本提案では、「0=ランドライン」と定義し、地形の操作によって建築の原点に立ち返ることを試みる。

一般的に、建築は土地の上に築かれる。しかしここでは、地形を削り、掘り、0を建築に取り入れることで、建築と地形が溶け合う空間をつくる。

この場に働くのは、建築と地形、都市と自然、人と空間が響き合う四則演算である。重なり合うことで生まれる新たな関係、削ぎ落とすことで見えてくる本質。要素が掛け合わさることで広がる体験、隔たりを取り払うことで生まれるつながり。

ここでは、建築は単なる「形」ではなく、都市の中のもう一つの「地形」として存在する。地面の起伏が人を誘い、木々の間を風が抜け、日々の営みが自然と溶け込んでいく。

それは、建築が本来持っていたはずの、土地に根ざした姿を取り戻す試みでもある。



## 敷地の設定

敷地は代々木公園。ここは、都市と自然が隣接し、多様な人々が集う場所である。その中に、新たな「佇む場所」をつくることで、公園を訪れる人々の過ごし方に新たな選択肢を生み出す。緑の屋根の下に広がる半屋外空間は、雨の日でも遊べる場となり、子どもたちが自然の中で遊ぶことができる。木漏れ日の下では、大人たちが会話を交わし、通りすがりの人も足を止めて佇む。人々は木漏れ日の中に佇み、自由な造形に自分の居場所を見つける。

# 人と人、人と自然の「 $+ - \times \div$ 」(四則演算)が作用する。

## + (足し算) — 新たな関係性を生み出す

都市に足りないものを、この空間に加える。人+人の偶然の出会いが生まれ、自然+建築が一体となり、都市の中に新たなつながりを生み出す。

## - (引き算) — 都市の喧騒を和らげる

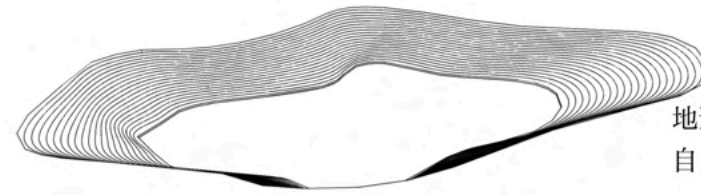
人工物-境界により、建築と自然の境界を曖昧にし、風景の中に溶け込む場所をつくる。

## $\times$ (掛け算) — 多様性が掛け合わさる

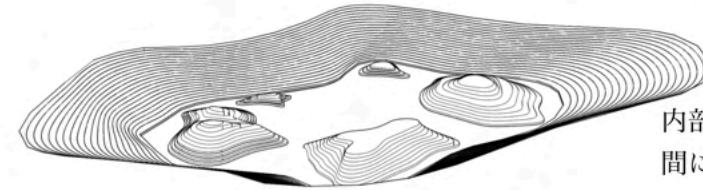
時間 $\times$ 体験によって多様な人々、用途、時間の掛け合わせが、この場の価値を増幅させる。朝はジョギングする人が通り抜け、昼は子供が遊び、夕方には仕事帰り、学校帰りの人が佇む。

## $\div$ (割り算) — 空間を分け合い、最適化する

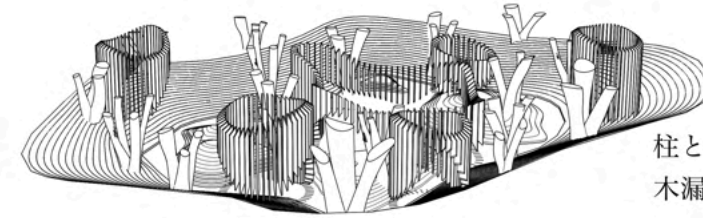
誰かの所有ではなく、誰もが自由に使えるパブリックスペース。1つの空間 $\div$ 多様な使い方によって、訪れる人それぞれが思い思いの居場所を見つける。



地形を下げ、空間を作る。  
自由曲線からなる階段。



内部の階段により居場所が増える。  
間に通路や広場が生まれる。

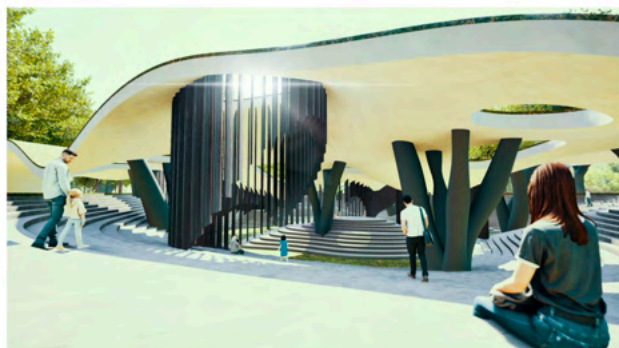


柱とルーバーで緩やかに空間を区切る。  
木漏れ日を感じる林を作る。



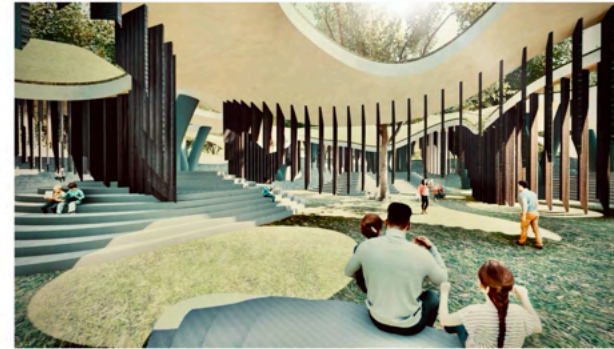
## 並木道から見える建築

視覚的に続くグランドラインが、周囲の自然と一体化しながら空間をつくり出す。この柔らかな曲線は、公園の風景に溶け込み、建築と自然の境界を曖昧にする。そして、その先に何があるのかを想像させ、人を引き込む力を持つ。入りたくなる、歩きたくなる、佇みたくなる。そんな直感的な魅力が、人々の動きを誘発し、新たな出会いや交流を生み出していく。



## 木漏れ日をデザインしたルーバー

ルーバーが、光と影を繊細に編み、心地よいリズムを生み出す。完全に閉じるのではなく、柔らかく空間を区切ることで、周囲とのつながりを保ちながらも独立した居場所をつくる。この曖昧な境界が、都市における開放感と安心感を同時に提供し、風が通り抜けるたびに、暖かな空気とともに人々の気配を優しく伝えていく。



## 地形を形取る階段

地形をイメージした自由曲線の階段は、人々の動きを自由にし、空間を歩くことそのものが一つの体験になる。階段の形状は身体の動きに自然に寄り添い、空間に立体感を与える。高低差が強調され、この階段には、どこでも座れるスペースが随所に配置されており、歩く途中で気軽に立ち止まり、くつろぐことができる。自由に座る場所を選べることで、訪れる人々は自分のペースで過ごし、空間と一体感を持ちながら、リラックスした時間を楽しむことができる。階段の間に生まれる通路は、空間全体の動線をスムーズにし、人々が自由に移動できるように計画されている。通路は自然に空間を繋ぎ、移動の流れを妨げない。



グランドラインの下に広がるこの空間は、視覚的に誘引力を持ち、訪れる人々に自然と入りたくなる感覚を与える。全体のデザインが一体となり、空間に柔軟性と魅力をもたらし、ただ通り抜ける場所ではなく、居心地の良い「佇む場所」として機能する。